

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所 構内の一角で2015年に羽化したクマゼミ (半翅目, セミ科) の抜け殻の長期付着

Long-term attachment of the cast-off shell of cicada *Cryptotympana facialis* (Hemiptera, Cicadidae) at a corner of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University, at Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan in 2015

久保田 信

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内の白浜水族館の西側の小さな出入口付近では、盛夏にクマゼミ *Cryptotympana facialis* (半翅目, セミ科) がマサキ, ハマユウ, トベラ上や水族館壁面で羽化する。この小区域で、2012年, 2014年, 2015年に総数でそれぞれ65個体, 106個体, 101個体のクマゼミが羽化した(久保田, 2012, 2015)。今回, 2015年にただ1個体だが, これまででない長期間, 抜け殻がマサキに付着し続けたので報告する。

2015年7月中の羽化地点の高さは3m以内がほとんどで, これより高所での羽化は, 水族館の壁やマサキ上でのわずか10個体だった。これらは羽化数を毎日数える時に採取せずにそのまま残しておいた。もっともわざわざ採取しなくても, 何らかの理由で自然に落下したものも見られた。

7月中旬から来襲した台風11号や引き続き台風12号などで水族館壁面に付着の抜け殻は全て吹き飛ばされ, マサキなどの樹木に付着したものも相当数が同様であった。しかし, ただ1個体だけが例外的に度重なる台風や風雨の影響にも拘わらず, マサキの一枚の葉に付着したまま落下せずに11月まで継続して付着した(12月初旬に既に落下)。従って, 少なくともおおむね4カ月間という長期の自然条件化での付着が見られた。

こうした付着は温室内などといった自然の影響のもっと弱い場所であれば, 付着基盤がずっと同じ条件でしっかりさえしていれば, より長く付着したままであろう。例えば樹木の枝上で羽化したものをその枝ごと採取し静置すれば, 半永久的な抜け殻標本が作製できるであろう。

引用文献

久保田 信. 2012. 和歌山県白浜町で脱皮殻上で羽化したクマゼミ (カメムシ目, セミ科) .

KINOKUNI, (82) : 16.

久保田 信. 2015. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内の一角で羽化したクマゼミ

の個体数 (半翅目, セミ科) . KINOKUNI, (87) : 18.

(くぼた しん 〒649-2211 西牟婁郡白浜町臨海459

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所)